

## 1 国語

学校番号 208

## 令和3年度 国語科

教科	国語科	科目	古典B (人文社会)	単位数	3	年次	2
使用教科書	新編古典B 改訂版(大修館)						
副教材等	ビジュアルカラー国語便覧、新明説総合古典文法、古文単語325 等						

## 1 担当者からのメッセージ

- ・古典としての古文と漢文の作品に親しむとともに、場面や心情等を正しく理解するために語彙力や文法の知識をしっかりと身に付けてください。
- ・様々な文章を「読む能力」を向上させるとともに、コミュニケーションのための「話す・聞く能力」や意思を伝えるための「書く能力」をしっかりと身に付けてください。
- ・予習として必ず本文を読み、ノートに写しておきましょう。わからない語句の意味などは積極的に辞書を引く習慣をつけてください。授業の後には内容を振り返って復習してください。

## 2 学習の到達目標

- ・古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。
- ・古典を読み味わい作品の価値について考察している。
- ・古典を読み比べ、共通点や相違点などについて説明するとともに、課題について調べたことを発表したり文章にまとめたりしている。
- ・古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育んでいる。

## 3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲 ・態度	b:読む能力	c:知識・理解
観 点 の 趣 旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
主 た る 評 価 方 法	行動の観察 記述の点検 (ノート、ワークシート等)	記述の確認及び分析(ワークシート) 定期考査	行動の観察 記述の確認 (ノート、ワークシート等) 定期考査 小テスト
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりとともに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

#### 4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準				評価方法
			a	b	c		
1学期	古文の説話・物語を読む	教材： 説話『今昔物語集』 「安倍晴明と百鬼夜行」 物語『伊勢物語』「初冠」  文法等…文語の用言の活用、助動詞	○	◎	○	a: 文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めようとしている。 b: 文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めている。 c: 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	a: 行動の観察  b: 記述の確認及び定期考査  c: 小テスト及び定期考査
	古典を紹介する	〈古典作品についての紹介を書くことで、文章の書き方を学ぶ〉  教材： ワークシート	○		○	a: 文章の形態や文体、語句などに合った適切な表現の仕方では書こうとしている。  c: 書くことに必要な、文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。	a, c: 記述の点検と確認  c: 行動の観察
	古文の随筆を読む	教材： 随筆『方丈記』 「行く河の流れ」 随筆『徒然草』 「今日はそのことをなさんと思へど」  文法等…文語の用言の活用	○	◎	○	a: 文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めようとしている。 b: 文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めている。 c: 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	a, b: 行動の観察  b: 記述の確認及び定期考査  c: 小テスト及び定期考査
2学期	古文の物語を読む	教材： 軍記物語『平家物語』「祇園精舎」  文法等…文語の用言の活用	○		○	a: 人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているのかを捉え、言葉の美しさや深さに気付こうとしている。 c: 文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。	a: 行動の観察及び記述の点検  c: 記述の確認と分析及び定期考査

3 学 期	古文の日記を読む	教材： 日記『更級日記』 「あこがれ」 「源氏の五十余巻」 日記『土佐日記』 「門出」  文法等…文語の用 言の活用	○	◎	○	a:文章に描かれている情景を、 文や文章、語句などから離れ ないようにして読み、人物の 言動や状況を捉える手掛か りとしている。 b:文章に描かれている情景 を、文や文章、語句などから 離れないようにして読み、人 物の言動や状況を捉える手 掛かりとしている。 c:古文を読むことに役立つ、 文語のきまりを身に付けて いる。	a:行動の観察及び記述 の点検  b:記述の確認及び定 期考査  c:小テスト及び定期考 査
	様々な漢文を読む	教材： 故事成語 「朝三暮四」 史伝『史記』 「鴻門之会」  句法等…訓読のきま り、頻出句法	○	◎	○	a:考えの進め方や、情景や心情 の推移など、文章の筋道を的 確に捉えようとしている。 b:考えの進め方や、情景や心 情の推移など、文章の筋道を 的確にとらえている。 c:漢文を読むことに役立つ、 訓読のきまりを身に付けて いる。	a:行動の観察及び記述 の点検  b:記述の確認及び定 期考査  c:小テスト及び定期考 査
	古文の物語を読む	教材： 物語『源氏物語』 「光源氏の誕生」(桐 壺) 「北山の垣間見」(若 紫)  文法等…文語の用 言の活	○	◎	○	a:文章に描かれている情景を、 文や文章、語句などから離れ ないようにして読み、人物の 言動や状況を捉える手掛か りとしている。 b:文章に描かれている情景 を、文や文章、語句などから 離れないようにして読み、人 物の言動や状況を捉える手 掛かりとしている。 c:古文を読むことに役立つ、 文語のきまりを身に付けて いる。	a:行動の観察及び記述 の点検  b:記述の確認及び定 期考査  c:小テスト及び定期考 査

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度                      b:読む能力                      c:知識・理解

※ 評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。